

科目名	異文化間 コミュニケーション論特講	担当者	ニシダ 西田	ツカサ 司	期間	通年	単位数	4
-----	----------------------	-----	-----------	----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>米国の異文化間コミュニケーションという領域が1つの分科会として発足したのは、1972年です。40数年という時間の中で、17の理論が構築され、概念そして方法論が明示された。一方コミュニケーションの行われるコンテキストについても研究がすすんだ。</p> <p>本講座の目的は、生活文化のコンテキスト研究と、異文化と切り離すことのできない非言語の領域について学ぶことです。この目的を達するために、それぞれの領域をレビューした文献を批判的に読めるように指導します。</p>		
到達目標	<p>到達目標は、教科書として選定した専門書を批判的に読み研究を概観します。領域について、まず、学び、要約という形でレポートの前半を作成します。</p> <p>レポートの後半は、考察です。考察では、前半の要約で用いた専門用語を用い、自分の知識や経験について述べるができるかどうか、考察のレベルを判断する基準になります。</p> <p>換言すれば、レポートの前半(要約)では、領域の大半の専門用語を含んだ要約になっているか、レポートの後半(考察)では、領域の専門用語を用いた考察になっているかが、到達目標となります。</p>		
学修方法	<p>上記の到達目標を達するには、以下の学修をします。</p> <p>要約と考察という形で提出されたレポートを添削することによって、学修の状況を確認します。添削により指摘した部分につき、加筆、修正し、返送されてくる再提出のレポートを確認することにより、領域が正確に把握できているか、確認します。</p> <p>基本的に、1回の添削により、評価対象になるレポートを作成することができますが、必要な場合は、2回あるいは3回の添削指導も行います。</p>		
スケジュール	<p>提出時期は、9月中旬と1月中旬となります。</p> <p>それぞれのレポートの作成に当たっては、添削指導を行います。つまり、1回目の草稿を受け取り、1週間ほどを費やしコメントを付け、戻します。添削された草稿を受領したら、コメントを参考に、加筆修正し、2回目の草稿を提出します。</p> <p>十分に余裕をもってレポートの提出に臨んでください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの評価は全体で、80%とします。1つのレポートに、20%を配分します。
	平常評価	20%	草稿への加筆、修正のコメントに対する対応を評価します。1つのレポートに、5%を配分します。
履修者への要望	<p>基本的なことですが、教科書の課題範囲をよく読み、また、参考図書として挙げられている文献も、適宜理解を進める上で、よく読んでください。その上で、要約と考察を執筆してください。</p> <p>領域の全体を理解するために、次の書物も役に立ちます。</p> <p>Berger, C. R. &amp; Roloff, M. E. (Eds.) (2016) <i>The International Encyclopedia of Interpersonal Communication</i>. Vols. I - III. Wiley Blackwell.</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 西田司・島岡宏（編） 教材名： 『比較生活文化考』（ナカニシヤ出版，2012年）ISBN:978-4-7795-0711-3 2,400+税
	本書は、生活文化という現象をさまざまな研究領域から捉えた論文集です。 亀井俊介の生活文化の定義（巻頭言に代えて）、島岡宏の領域の歴史的レビュー、西田司の不確実性論、古田順子の異文化トレーニング、小川直人のストレスの日米比較、青木千賀子のネパールの生活文化、内藤伊都子・櫻坂英子の国と国民イメージなどの論文を収録している。 生活文化の多様性と異文化コミュニケーション、イメージについて理解を深めます。
参考図書	Gudykunst, W. B. (2004). <i>Bridging Differences: Effective Intergroup Communication</i> . Sage. ISBN:0-7619-2936-3
履修上のポイント	本書は、生活文化について論じていますが、隣接領域からアプローチしている論文がたくさん含まれています。その現象を生活文化研究の第一人者の亀井俊介は、「触手を伸ばす」と表現しています。特に、社会科学の手法による研究に注目し批評的に読んでください。
レポート課題 1	生活文化について、教材を要約し、また、知識と経験をもとに考察せよ。 具体的には、「巻頭言に代えて」と第1章を2,000字で要約、生活文化について1,000字で考察してください。 <b>留意点</b> ：考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。
レポート課題 2	社会科学の手法による研究について、教材を要約し、また、知識と経験をもとに考察せよ。 具体的には、第2、4、6、8、10章の中から2つの章を選び2,000字で要約し、さらにそのうちの1つの章(テーマ)について1,000字で考察してください。 <b>留意点</b> ：考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： リッチモンド & マクロスキー, J. C. 教材名： 『非言語行動の心理学』（北大路書房，2001年）ISBN:978-4-76-282220-9 3,200円+税
	本書は、メッセージを形成する非言語のサイン全体をテーマとしていて、コミュニケーションモデルを理解するには、最適の専門書といえる。 外見、ジェスチャー、感情表現、視線行動、対人距離、接触、接近性のテーマを含め、基本的領域をカバーし、その後の章は、前半の基礎概念を用い、実践的なコミュニケーションの場をテーマとしています。
参考図書	大坊郁夫『しぐさのコミュニケーション』（サイエンス社，1998年） ISBN:978-4-78-190888-5 1,500円+税 大坊邦夫『対人コミュニケーション』（ナカニシヤ出版，2005年） ISBN:4-88848-974-2 2,400円+税
履修上のポイント	本書は、アメリカの非言語コミュニケーション研究の集大成ともいべき書です。1970年代以降の研究結果が網羅されています。じっくり読んでください。 各章には、用語集もつけられているので、基礎概念を理解し、要約するのに役立ててください。
レポート課題 1	第2章～第5章、第7章～第9章の中から3つの章を選び3,000字で要約し、さらに、その中から、1つの章(テーマ)について、知識や経験をもとに1,000字で考察してください。 <b>留意点</b> ：考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。
レポート課題 2	第10章～第13章の中から2つの章を選び2,000字で要約し、さらに、その中から、1つの章(テーマ)について、知識や経験をもとに1,000字で考察してください。 <b>留意点</b> ：考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。